

第六回 忠順大賞

(平成二十三年)

度)

入賞作品

・応募作品 一二八五首

・荒川心星先生 撰評

小学生の部

豊田市長賞

駒場小六年 杉浦 静花

ふりむけばいつもいるんだ友達が

悲しい事も笑顔になるよ

※友達への感謝の心情が素直に出て

いて、あたたかみのある歌。きつと笑顔を運ぶ人になるでしょう。

豊田市教育委員会賞

堤小二年 清水 もえな

きれいだねふじも見ているはつひの

で

みんなの顔もひかりかがやく

※初日の出を見事に詠んでいる。上

の句と下の句とがひびきあっている。下の句の表現はすばらしい。

会長賞 金賞

堤小三年 神近 晏那

じいちゃんの畑でとれたお野菜いは

形悪いが愛がタップリ

※常日頃、畑仕事の祖父を見ている

のである。結句の「愛がタップリ」は感謝の心があふれている。

会長賞 銀賞

駒場小三年 かとう あいな

がくげいかいせりふおぼえてがんば

って

おおきなうごきママにみせよう

※学芸会を間近にして、心身ともに

あらわれる喜びが躍如とあらわれている。下の句が光っている。

会長賞 銅賞

駒場小一年 すま かのん

おとうさんしごとがおそくさみしい

よ

だからわたしがてがみをかくね

※仕事から帰ってくるのが遅い父親

へのメッセージである。下の句の「わたしがてがみをかくね」の心情があたたかい。

中日新聞社賞

駒場小五年 須磨 侑大

お父さん今度駅伝出るんだね

ぼくも一緒に練習するね

※全体が会話体になっていて親近感

をもたせてくれる。父親への思いやりが下の句に出ていて心地よい。

優秀賞 (三名)

駒場小五年 桑島 一樹

しあわせだきちようなたいけん

米づくり

多くの人に感しゃの一言

※米作りの貴重な体験を思い出して

いるのだ。農家の方をはじめお世話になった方への思いが初句と結句に素直に出ている。

堤小二年 たなべ ゆい

おばあちゃんいつもげんきにあるい

てる

じょうぶになつてるまたあるこう

ね

※元気になった祖母と孫とのウォー

キングの姿が浮かんでくる。結句の「またあるこうね」は祖母への思いがこもる。

堤小二年 うの あきひと

おかあさんまいにちごはんいいにおい

ぼくのおなかはぐうっとへんじ

※毎日、食事の支度をする母への感謝の心が、二句と三句によく出ている。結句の「ぐうっとへんじ」の表現が嬉しい。

中学・一般の部

豊田市長賞

前林中一年 岸水 あみ

ありがとういつもかわらぬふるまい

で

わらうみんながこころのささえ

※ありがとうという言葉が内面の輝きを伝えていて心温まる歌となっている。

豊田市教育委員会賞

前林中三年 伏見 ことは

三年間かかさず歩いた通学路

思い出忘れず卒業します

※三年間、毎日のように歩いた通学路とも卒業。通学路に感謝をこめて別れようとする心が立派。

会長賞 金賞

前林中三年 近藤 涼香

そらみあげとおくのくもにつぶやいた

た

いまあやまつてもおそいかな

※遠山に浮かぶ雲に向かって、自分

のあやまちをあやまつているのだ。

自然と対話できるのは、やさしい心の持ち主である。

会長賞 銀賞

前林中一年 石川 真綸

きをつけてまいあさおなじははからの

の

げんきになれるまほうのことは

※毎朝の母の言葉は「げんきになれるまほうのことは」であるという言い切りの強さに瞠目された。

会長賞 銅賞

前林中三年 野口 翔太

心から笑っていられるこのクラス

いつもありがとうクラスの仲間

※いつも楽しく明るくクラス。上の句と下の句が照応して折りに似た安らぎを覚えるありがとうの歌。

中日新聞社賞

前林中二年 湊川 理奈

くうちゅうのながれにのってうごく

くも

そのとなりにははれわたるそら

※晴れ渡る青空と流れる雲の描写の確かさがある。静寂の明るさが胸に落ち込む。青空ありがとうの歌。

優秀賞 (三名)

前林町 甲村サカエ

すばらしや郷土の偉人の生涯を

学童演じ拍手の止まず

※一般の方の作品。学童への思いが



村上忠順翁

こもり作者自身の立ち姿が重なって
読める。下の句がいつまでも耳に残
り心に響く。

前林中二年 遠藤 隆史

さいごまであきらめないではしりぬ

く

もらったバトンをきずなどおもえ

ば

※さらりとした心の弾み。青春の讃
歌の明るさ。下の句にしみじみと
した愛情がこもっている。

前林中二年 相美 優香

かえりみちなかまとかえるつうがく

ろ

めににじむほどきれいなゆうひ

※一生忘れることのない通学路で眺
めた夕日。美しい夕日に吸い込ま
れてゆくような幻想の美学がある。

* * * *

第六回となります短歌募集、名前
も改めまして「忠順大賞」に総数一
二八五首の応募を頂きありがとうございます
ございました。事務局での第一次審査
を経て、俳人協会会員の荒川心星先
生による最終審査により以上の十八
名の方が入選されました。おめでと
うございます。また先生には講評も
添えていただきました。

今年も三十一文字の中にいろい
ろな想いを込めた短歌の数々、くすつ
と笑いを誘うような短歌、心温まる
人と人との繋がりが伝わってくる
様々な短歌に出会うことが出来まし
た。

応募して下さった大勢の方々、授
業、行事等で大変お忙しい中、協力
して頂いた小、中学校の先生方に感
謝致します。

事務局 川村